

県都まえばし 創生プランが完成



ここに住んでいたい。
そんな気持ちが続くまちに

子どもたちの元気な声が聞こえるまち。親になっても、おじいちゃんおばあちゃんになっても、ずっと住みたいまち。自分の子どもや孫を住ませたいまち。そんなまちを目指します。

政策推進課 ☎ 027-898-6512

人口減少を食い止めるために 将来の人口展望を設定

本市の人口は、高度経済成長期を経ながら増加してきましたが、すでに減少局面に突入しています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には28万181人、2060年には22万541人になると推計。自然増減（出生数と死亡数の差）と、社会増減（転入者数と転出者数の差）を見ると、近年は死亡数が出生数を上回る自然減に加えて、転出者数が転入者数を上回る社会減の傾向が続いています。その中で、人口減少を減速させるために、本市が目指す将来の人口の展望を設定。2040年に人口30万人、2060年に26万5,000人を目指します。

人口減少問題を克服し、地域の活性化に向けた地方創生の取り組みを進める「県都まえばし創生プラン（前橋版人口ビジョン・総合戦略）」が完成。これを策定するため、産業や行政、教育、金融、労働、メディア、住民の各分野の有識者が議論を重ねてきました。理念は、「子どもたちの元気な声が聞こえる」と住みたい生涯活躍のまち「健康医療都市まえばし」。今後は、総合戦略に掲げた事業を推進し、地方創生の取り組みを加速します。

●本市が設定する2つの目標
現状を打破するために、基本目標を2つ設定。一つは合計特殊出生率を現状値（平成26年度）1・42から、目標値（平成31年度）1・52に上げること。さまざまな施策で、

若者の定着を目指して

前橋国際大や前橋工大では、学生が市内で就職できるようサポート。本市では、県外から転入し市内中小企業に就職した人や、雇用了市内中小企業に奨励金を交付します。市内の大学や専門学校、企業と協力し、若者の定着を目指します。

若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえます。もう一つは、20歳から24歳までの市外への転出超過数を現状値（平成26年度）251人減から目標値（平成31年度）118人減とすること。若者の定着と高齢者の活躍で、地域の活力を維持します。

創生プランで目指します 健康医療都市まえばし

現状を克服し、これらの目標を達成するための計画が、「県都まえばし創生プラン（前橋版人口ビジョン・総合戦略）」です。

この計画で優先的に解決する必要がある課題は、未婚率の上昇、夫婦間の出生数の減少、若者の総数の減少、要介護等認定者率の上昇の4つと考えています。

●解決に向けた方向性

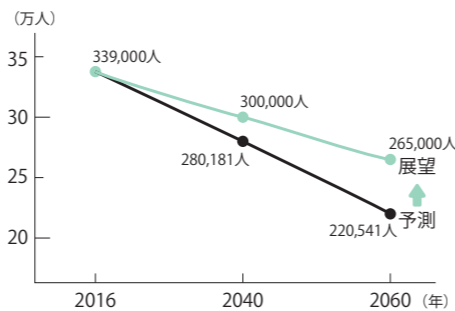
2つの基本目標と4つの優先課題を踏まえ、12の施策に取り組みます。
①出会いの機会の応援②安定的な雇用と収入の確保③不妊・不育支援④2人目の壁打破⑤子どもへの育ちを支える教育⑥市内高等教育機関の魅力向上⑦市内大学生などの定着⑧ふる



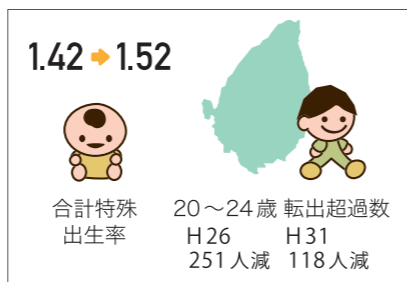
下川町 反町 恵理子さん・美澤ちゃん
琴羽ちゃん



本市の人口の予測と展望



人口ビジョンの目標値



さと就職を促す魅力あるしごとづくり⑨交流人口の増加⑩移住・定住促進⑪生涯活躍のまちづくり⑫都市のコンパクト化と交通ネットワーク

●10のシンボル事業（さきがけ10）

基本目標を達成し、人口減少問題の克服に向けて、本市が取り組む10

外部有識者とともに
作り上げた創生プラン。
健康医療都市
まえばしを実現します。



政策推進課 樋山 充洋

の先導的・象徴的な事業は、①若年男女の結婚への壁打破②ジョブセンターマえばしによる包括的就職支援③子育て世代包括支援センターの充実④地域寺子屋事業⑤産学官民コンソーシアムによる学生の定着促進⑥ベンチャーへブンまえばしの実現⑦魅力の発信拠点となる新たな道の駅⑧地域づくりネットワークを核とした家族移住の促進⑨前橋版C-C-R-Cの推進⑩交通ネットワークの再編。これらの事業をプランの中で先駆けて取り組んでいきます。
子どもたちの元気な声が聞こえるまち。ずっと住んでいきたいまち。そんなまちを目指して、みなさんと力を合わせていきます。